

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年4月25日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙		
検証テーマ：オープニング、西村大臣が自宅待機 【特集】感染抑止～世界は？日本は？		
報道トピック一覧 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ステイホーム」の週末各地の様子</li> <li>・オープニング</li> <li>・大阪府が営業中のパチンコ店を公表</li> <li>・感染拡大が続く東京都</li> <li>・長崎クルーズ船で新たに約60人が感染確認</li> <li>・世界の「ステイホーム」</li> <li>・西村大臣が自宅待機</li> <li>・福知山線事故から15年</li> <li>・家庭内感染を防ぐ難しさ</li> <li>・虐待やDVで若い女性の相談が倍増</li> <li>・【特集】新型コロナ～逼迫する医療と介護</li> <li>・【特集】感染抑止～世界は？日本は？</li> <li>・スポーツ報道</li> </ul>		
放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨 <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープニング：結論→特に問題なし                      番組冒頭で金平キャスターが「ええ、緊急事態宣言が出てからまもなく3週間近く、生活の場が様変わりする中、病院などの医療現場では文字通り命がけの活動が続けられています。それぞれの持場で私達はどうしたらいいのか、声の大きい人や上の人言いなりになるのではなく、私達自身で考えましょう。」とコメントしていた。このシーンに当てられたのは21秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</li> <li>・西村大臣が自宅待機：結論→特に問題なし                      膳場キャスターの「内閣官房の新型コロナウイルス感染症対策推進室の職員が感染し、西村経済再生担当大臣が自宅待機になったことを受け、安倍総理はみんなに感染のリスクがあるとしてさらなる注意を呼びかけました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したようなVTRが取り上げられた。                      "安倍総理「西村大臣もですね、自宅で閣議をしているところであります、」                      ナレ「安倍総理はさきほどこのように述べた上でみんなに感染のリスクがある、今日明日はいい天気だがなるべく外出は控えてもらいたい、などと感染拡大防止に向け、さらなる警戒を呼びかけました。西村大臣は感染が判明した内閣官房の職員とともに19日に病院の視察をしたことから自宅待機となり発熱などの症状はないもの予定していた会見も取りやめています。」"                      このトピックに当てられた時間は55秒で放送法上は特に問題は見られなかった。</li> </ul>		

・【特集】 感染抑止～世界は？日本は？：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「では次です。日本では感染拡大の収束が見えない現状の一方、アジアには感染抑止で効果を上げている国もあります。」とのコメント、日下部キャスターの「いつ判断しどんな対策を打ったのか。そして日本の対策はどう評価されているのでしょうか？」とのコメントを受けて、以下に朱記したとくしゅうのVTRが取り上げられた。

ナレ「新型コロナウイルスの封じ込めに成功している。台湾。毎晩開かれる名物の夜市はこの賑わいだ。今月開幕したプロ野球ではこんな試みも。観客を入れない代わりにマネキンや応援歌を歌うロボットを置いている。」

ナレ「確認されている感染者は、昨日までに428人。感染経路がわからない人は、10人とどまる。」

ナレ「市民はどんな生活を送っているのか。毎日新聞の福岡静哉台北特派員に聞いた。」

日下部「日常生活で、不便を強いられるような場面はかなりあるのですか？」

福岡特派員「ほとんど日常生活を送る上ではですね、そんなに通常と変わらないような生活は送れています。こちらに住んでいる日本人もやっぱり、『台湾にいてすごく安心できる』って」

ナレ「街では、様々な対策がなされている。フードコートには、アクリル板で仕切りが。地下鉄の改札では、サーモカメラで検問を行う。またマスクをつけてないと、乗車出来ず、罰金もある。」

ナレ「日本ではまだ供給が追いついていない、マスク。台湾では今週から、コンビニの端末を利用した、マスクの予約システムが導入された。SNSにはコンビニの店員が、操作手順を説明する動画がアップされている。まず端末に健康保険証を差し込む。」

店員（吹替）「マスク受け取り、防疫大作戦をタッチします。」

ナレ「案内に従って進んでいけば、1分程度で予約が完了。2週で9枚まで購入することができ、薬局に並ぶ必要もない。」

ナレ「新型コロナ対策のキーパーソンが、副首相に当たるちんきまえ行政院副院長だ。医師で、公衆衛生の専門家でもある。行政院のナンバー2が取材に応じた。」

日下部「ニーハオ。封じ込めに成功した最大のポイントは何だと副院長は考えますか？」

陳副院長（吹替）「武漢でみつかった肺炎について、去年12月31日の時点で、到着した旅客機の検疫を行ったことです。」

ナレ「中国武漢に原因不明の肺炎患者がいるとの情報を掴んだ、陳副院長は、当直が存在を認めた12月31日から、武漢からのすべての直行便の検疫を開始した。さらにマスクの需要が増えるのを見越して、1月中から増産に向け奔走。1日の生産量は、190万枚から1500万枚と8倍に増えた。」

日下部「非常にですね台湾は迅速な対応をしたと、ということでしょうか？」

陳氏（吹替）「そうです。1月16日にはすでに基本的な対策マニュアルが完成していました。私たちは過去に台湾を襲ったSARSの危害を教訓に法令の整備や医療体制の準備などをここ数年着実に進めてきたのです。」

ナレ「先手を打つ対策は教育現場でも。春節明けの始業を一週間遅らせ、その間に毎朝各学校で検温できる体制づくりや、いつでもオンライン授業に切り替えられるよう、通信テストなどを行った。蔡英文政権への市民の評価は高い」

記者（字幕）「Q、マスクに関する政策をどう評価？」

女性（吹替）「100点満点だと思います。」

男性（吹替）「マスクの政策とか、入境者に対する制限措置とか他所との違いは大きいと思います。」

ナレ「一方で台湾から見ると、日本の対応は遅いと感じるようだ。」

毎日新聞福岡特派員「こちらの人がよく言うのは、やっぱり、あの一習近平さんが日本に来るという予定があっ

だから、中国に遠慮したんでしょうっていう事を皆さんまずおっしゃると、後はマスクのことですかね。マスクは何で布が2枚なんだっていうのは。」

ナレ「台湾では私権＝個人の権利を大きく制限する対策を取られている。海外からの渡航者は、バスなどで自宅や隔離場所などへ送られ、14日間隔離される。」

毎日新聞福岡特派員「本当に一歩も出ちゃいけないですね、あの少しでも出ると警察が携帯電話のGPSで、感心してますので町内会長が飛んでくるんですね。」

ナレ「台湾の町内会長、里長は、選挙で選ばれる公職。隔離対象者が外出すると警察から連絡がくるようになっている。」

毎日新聞福岡特派員「夜のお店に遊びに行った人が罰金になって、一番高いのが360万円。合計で2億円近くになっていますね。罰金額がですね。」

町内会長（吹き替え）「体調はどう？」ナレ「町内会長は、毎日隔離中の人の健康チェックを行い、買い物ができると同居者がいない人には、食事も届ける。隔離された人には1日あたり、3600円の補償金が出るという。」

毎日新聞福岡特派員「先手先手でこう、これまで見てみると、全ての値がきちんと準備をした上で、丁寧に説明をしてですね、民衆に、理解、納得してもらった上で、その制度をはじめますので、ある程度その、権利を制限するようなことをしてますけども、それでもその、民衆が付いてくるってのは、前提として、政府に対する信頼感ってのは大事だと思います。」

ナレ「台湾の感染拡大防止策に、厚い信頼を寄せる人々。その大きな要因は、厚労大臣に当たる、陳時中衛生福利部長らにおける会見だ。ほぼ毎日開かれ、原則として記者の手が上がりなくなるまで、質問に答えている。特に台湾の人々の心を打ったのは、封鎖後の中国武漢から初めて市民が帰還した時の会見だ。感染者が一人確認されたことについて、陳部長は」

陳時中氏（吹替）「今回の重要な目的は、医療環境の良くない武漢から、患者を連れ帰ることでした。その尊い命が、失われてしまうかもしれないからです。私たちの医療システムで、最大限の力を尽くして、彼を助けたい。」

ナレ「感染する前に連れ戻されなかったことに責任を感じ、涙した。」

行政院陳其マン副院長（吹替）「人々は冗談まじりに、『毎日陳部長の記者会見を見るのが楽しみで、顔を見ないと眠れない』と話しています。」

日下部「日本にはですね、中国のような全体主義国家じゃないと、なかなかこのウイルスの封じ込めはですね、難しいんだという、そういったことを言う人もいます。一方で台湾のようですね、自由主義な地域でもですね、十分封じ込めはできたわけですね。その点、副院長はどう考えますか？」

陳副院長（吹替）「最近数日にわたり、感染者数がゼロになりました。私たちとしては、人々が生活を正常なまま維持できるように、感染拡大防止の対策を、しっかりと行なっています。感染者一人一人を見つけることができるからこそ、他の人々はより自由に行動できます。街を封鎖しなくて済むのです。」

ナレ「今週に入り新しい感染者の数は、一桁台の日が続く韓国。欧米の様々な国が、韓国の感染防止対策を導入しているという。政府の疫学調査を担当した韓国医学研究所のシン・サンヨブ医師に聞いた。」

日下部「新型コロナ対策で、特に効果を発揮した対策、これはどういう点があったと思いますか？」

シン氏（吹替）「大量のPCR検査をしてその結果を早く出せるように備えたことです。1月から診断キットを作り、多くの検査をすばやく行えるようにしました。」

ナレ「医療関係者のリスクを減らすため、感染症の専門家の提案で、ドライブスルー方式や、ウォークスルー方式の検査体制が整えられた。さらに力を入れたのが、感染が判明した後の情報公開だったという。」

シン医師（吹替）「感染者が行動した場所に関する情報公開が重要です。本人の記憶だけでなく、カードの使用履

歴や、携帯の GPS を利用して、同じ時間帯にその場所にいた人たちが自主的に当局に申告したり、 PCR 検査を受けやすいようにしています。」

ナレ「民間企業が開発したアプリには、こうした情報をもとに、感染が判明した人がどこにいたか、その履歴が示される。赤が感染者がその場にいた時から 2 日以内の場所。 オレンジが 2 日から 5 日以内、緑が 5 日以内の場所を示す。感染者がそこにいた日付と時間帯も、知ることができる。」

ナレ「報道特集は、ソウル市役所のデジタル市長室を取材することができた。このデジタル市長室とは、災害の状況、交通、大気汚染などの情報把握をするとともに、ソウル市長がオンライン会議を行うなどの目的で、3 年前に導入されたものだ。」

ソウル市ビッグデータ担当官チョ・ヨンヒョン氏（吹替）「忙しい市長が、情報把握できるようになっています。」

ナレ「これは、ソウル市内にある新型コロナウイルス専門の診療所。赤に黄色い三角が表示されているのは、陽性患者を受け入れている施設。白地に水色のマークが、病床が空いている施設を、示している。」

チョ担当官（吹替）「その患者がいつ入院して、いつ退院したのか。その人の国籍や感染者の管理番号も、確認できるのです。」

ナレ「個人情報をごここまで公開できるのは、2015 年の MARS 大流行の際、感染者の訪問先の情報を、開示しなかったことが批判を呼び、大きく法改正をしたからだ。」

チョ担当官（吹替）「色付きの丸い印がマスクを販売している薬局や郵便局、農協などです。」

ナレ「色の違いはマスクの在庫率。緑は 75%以上。オレンジが 50%以上など、一目でわかるという。」

チョ担当官「ソウルではマスクを買うのに、困ることはありません。」

ナレ「市長室の掲示板の情報は、市役所のホームページでも公開されている。」

シン医師（吹替）「検査を行うことが、感染拡大を防ぐ最善の方法です。個人情報の露出を最小限にして、感染者の動線を公開し、徹底した防疫を行うことが、重要なのです。」

ナレ「徹底した PCR 検査と、情報公開で、感染拡大を抑え込む韓国。シン医師が重視しているのは、全体の検査数のうちの、陽性者の割合。陽性率だと言う。」

シン医師（吹替）「現在爆発的な感染が起きている欧米の場合、陽性率が 10 から 40%になっています。日本の陽性率が高いとすれば、これまでの検査が十分では、なかったため、感染者を正確に把握できなかったのではないかと見えています。」

ナレ「一方、日本の PCR 検査の現状は、どうか。オックスフォード大学の研究チームが各国のデータを用いて行った分析によると、世界的に非常に少ない状況などがわかる。しかし徹底した調査と PCR 検査の実施で、感染抑止に成功した県がある。和歌山だ。2月13日済生会有田病院で初の感染者が確認された。」

ナレ「これは JNN が独自に入手した県の内部文書だ。済生会有田病院に務める、肺の検査画像について、こう書かれている。」

内部文書「2月12日11時30分、済生会有田病院の医師が、ウイルス性肺炎で A 病院に入院している。 B 病院を受診した済生会有田病院の同僚の医師と、画像がよく似ている。しかし国が示している基準ではないので、PCR の検査はできないのか？」

ナレ「当時、国が医療機関を受診する目安としていた基準は、中国湖北省への渡航歴が含まれ、2月17日に改訂後も、37.5°以上の発熱が、4日以上続く人に限られた。しかし県は、この基準に当てはまらない人にも検査を実施することを決断した。」

ナレ「対策の陣頭指揮をとった野尻多佳子技官は、」

野尻孝子技監「一番最初の探知の例なんかも、当時の国の基準では検査の対象外。」

記者「国の基準に粛々と従っていたとしたら？」

野尻技監「探知はできなかったということですね。国の方針プラス医師の判断。特に肺炎は注視していこうっていうのが、県の方針ですね。」

ナレ「最初に行われたのは、検査の順番に優先順位をつける”検査トライアージ”だ。最も優先したのは、最初に感染が確認された医師と、同じ外科病棟で勤務していた同僚達だった。次に同じ病棟の入院患者や、他のフロアでも実施した。病院関係者だけでなく、感染者の家族や知人にも検査の対象を広げたと言う。」

ナレ「感染調査班を立ち上げ、体調に異変がある人はいないか、病院周辺での聞き込みも、行った。」

感染調査班小倉知典主査「まず交通機関でありますとか、飲食店でありますとか、物産販売所でありますとか 観光施設。まずはじめに当たらせて頂いて、その中で聞き取った情報をもとに、当日担当チーム全員持ち帰りますので、それでまた部長局長はじめ、幹部と会議を持ちましてですね、次はこちらの施設を、周辺をあたってみようかと。」

ナレ「当時、和歌山県が、1日に検査できる数は、40件のみで、全ての検査をまかなうのは、困難だった。そこで大阪府など、他の自治体に協力を要請し、感染発覚から3週間で、802人の検査を実現した。2月1日から先月18日の期間で、保健所への相談件数に対するPCR検査の実施割合は、東京都が1.5%。大阪府が3.5%にとどまっていたのに対し、和歌山県は35%に登った。」

ナレ「和歌山県の仁坂吉伸知事は、取り組みを振り返り、こう話す。」

仁坂吉伸知事「国の基準に従うというのが、基本原理であるというのはこれっぽっちも初めから思っていないもんね。ゆっくりやってたら、どっかで破綻するんで、急いでやると。やりきってしまうというね、その二つじゃないかなと思いますけどね。」

ナレ「その後政府は」

安倍総理「感染拡大の防止に向けて、PCR検査大態勢の1日二万件への倍増や、保険所の体制強化により、クラスター対策を抜本的に強化します。」

ナレ「今週、各地の自治体では臨時の検体採取場の設置が始まった。東京都医師会は、最大で都内47箇所にPCRセンターを設置する方針で、ドライブスルー方式のセンターも、開設されている。」

ナレ「公衆衛生学が専門の、国際医療福祉大学和田耕治教授はこう語る」

和田 耕治教授「PCR検査も含めて、検査も含めてランプ法も含めて、検査ができるような体制というのは各都道府県で、どんどんもう、高めていただく必要があります。一方で全く軽症といいますか、症状が軽い方に対しても、検査をやるということは、おそらくその地域の検査体制が、破綻してしまいますので、あくまでやっぱりその、検査をやる体制というのは、限られたリソースである。そしてそれは、常に重症者を対象として、優先としてやっていくことが大事になります。スクリーニングとして、100人にやってみてどうかと言った検査の使い方は、いわゆる健康診断でをやったりするんですけども、まだまだそういった形で行うというのは他の国も含めて、そんなにないと、いう風に思っています。」

ナレ「一方、来月6日までと期限が切られた緊急事態宣言。果たして期限通りに解除となるのだろうか？」

和田教授「5月6日まではですね、かなり多くの患者さんが、病床を占めている状態になります。そこで解除だということで、もしそこで人々の行動がまた、わあっとこう、経済活動も、元のようにではないでしょうけども、変わるとですね、また病床が逼迫するような事態が、出てきたりすると、」

日下部「連休明けですばっと、切れて、というような状況ではないと？」

和田教授「そうですね。切れる地域はもしかしたらあるかもしれませんが、もう少し継続が必要な地域はあると思います。直前でまたこれ延期されても、連休もありますし、事業者の方も個人の方も学校の方も、色々と

困ると思いますので、比較的4月の30日のあたりくらいには、ある程度の方向性が、示されるべきかと私は考えています。」

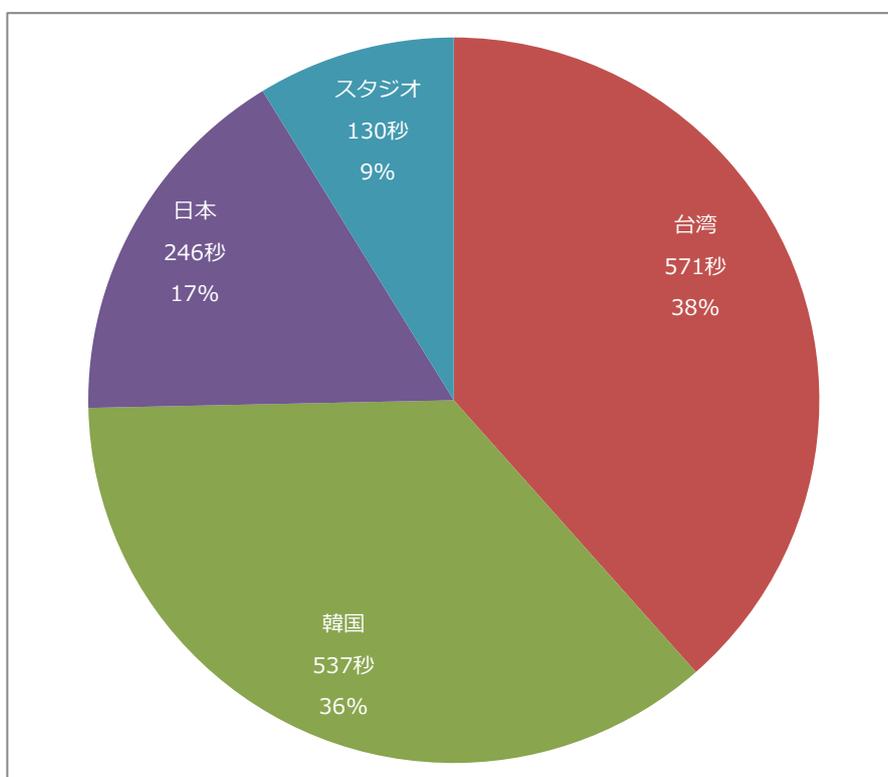
特集のVTRを受けて以下に朱記したやり取りがスタジオで繰り広げられた。

膳場「年明けから万全の準備をしていた台湾と、それから徹底的なPCR検査を行なった韓国。どちらも感染抑止で、効果をあげましたね。」

日下部「韓国も台湾も、ともにですね、SARS,MARSで多くの犠牲者を出して、それを教訓にですね、感染症対策に本気で、取り組んできたわけですね。私は2月の初めに、台湾に取材に行ったんですけども、その時も検温やですね、あの消毒を徹底してやっていて私驚いたんですけども、一方で、台湾の人たちからは、日本の対応は緩すぎると、何度も言われましたね。あの台湾の場合、とにかく対策のスピードが速いし、毎日記者会見を開いて、対策の内容を納得いくまで、説明して、飛び交うフェイクニュースこれに対してはきちんと理由を上げて、否定すると。そこに人々は安心を覚えて、政権に対する信頼感。これに繋がってるわけですね。さらにですね、韓国台湾共に、政権交代可能な野党があって、これがですね政府のコロナ対策に緊張感とスピード感。これを産んでるんだと思うんですね。」

金平「僕は和歌山の病院の院内感染の発生時に、取材にしたんですけども、その際に仁坂知事にお会いしたんですけどね、知事がくどいほど言っていたのは、情報は絶対に隠さないと、全部公開するからっていう風に、言っていて、これは韓国や台湾の姿勢に通じるもんだというふうに思うんですが、それからね、今自宅療養中の軽症扱いされた患者さんたちがね、亡くなっているケースがありますけども、これはあの、三十七度五分以上が4日続いたら、相談センターにというような当初の政府の方針がですね、もし、誤解を受けたということであるならば、一刻も早く修正すべきだったという風に私は思いますがね。」

この特集に当てられた時間は1484秒で、台湾のコロナ対策、韓国のコロナ対策、日本の状況、スタジオでのやり取りに大別され、その時間配分及び比率は以下の通りであった。



放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・オープニング

金平キャスターの「それぞれの持場で私達はどうしたらいいのか、声の大きい人や上の人言いなりになるのではなく、私達自身で考えましょう。」というのはその通りであるのだが、公共の電波を使い、自説を開陳する、自らの思いの丈を述べる、自らの興味関心の赴くままに番組の特集を組むなどというのはおおよそ一般人には到底なし得ない、ある種の特権であり、世間並みの基準から見たら金平キャスターも十分に「声の大きい人」、「上の人」と言えると思うのだが、金平キャスターにはそういう自覚はあるのだろうか、コメントを聞いていて素朴ながら気になった。